多文化共生社会を生きる
-そのための多文化交流の実際について-

公益財団法人国際理解支援協会常務理事　富山 謙一
TOMIYAMA Kenichi

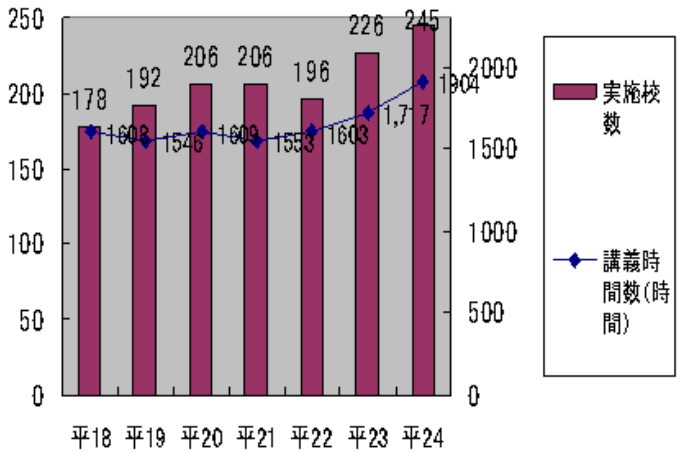
キーワード：多文化共生、国際理解教育、留学生講師

１　はじめに

今や国際社会は多文化共生社会を迎えている。この社会で活躍できる日本人には、どのような資質・能力が求められるのであろうか、それに対する学校教育における「育てたい子ども像」を次の３点に要約してみる。

① 異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる児童生徒
② 自らの国の伝統・文化に根ざした自己を確立することのできる児童生徒
③ 自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる児童生徒

（出典:「初等中等教育における国際教育推進会議報告」より）



図表１：講義（授業）実績の経年変化

当支援協会が主催する平成元年に創設した「留学生が先生！」教育プログラムは、上記の「①異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる児童生徒」を育てることを主たる目標に掲げて、学校の国際理解教育を支援している。

図表１のとおり平成 24 年度の実績は、当教育プログラムを活用した学校が、合計 245 校・1904 時間であった。実施校・実施時間共に過去最高の実績を上げてもいる。ちなみに、この数は、東京都の公立中学校及び高等学校のそれぞれ２割の学校で実施していることになる。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

この当教育プログラムは、文部科学省及び東京都教育委員会より後援を受けている。また、平成25年度には、当教育プログラム創設25周年を機に、東京都教育委員会より「国際理解教育の振興に寄与されました」との感謝状を受けた。

東京都教育庁金子指導部長より感謝状を受ける当協会の一井代表理事（平成 25 年６月）

２「留学生が先生！」教育プログラム

上記の「育てたい子ども像」を踏まえると、日本で学ぶ外国人留学生に講師として学校の教壇に立ってもらい、日本の児童生徒に多文化に触れさせ、交流させることが極めて効果的であると当支援協会では考えている。

現在、日本で学ぶ外国人留学生は、約 14 万人おり、その半分が関東地方にいる。その外国人留学生に、小・中・高等学校の教壇に立ってもらい、母国の文化を語ってもらい、日本の子どもたちと文化交流をしてもらうプログラムを企画したのである。

講義をしてもらう外国人留学生の募集については、首都圏の大学の留学生課にお願いし、募集のためのポスター掲示・応募用紙の配布をしていただいている。

応募した外国人留学生に対しては、面接選考（応募倍率３～４倍）を行い、自信をもって講義ができるよう講義の仕方などの講習を行い、講義レジュメを作成させ、ロールプレイ（模擬授業）を経て教壇に立たせている。また、最初の講義はもとより、通常の講義にも元公立学校の教員経験者が付き添い講義の仕方や改善のための指導・助言を行っている。

また、学校に対しては、外国人留学生の講義料及び交通費を無料とし、その分を当協会より出講した外国人留学生へ講義料及び交通費として支給している。

３　多文化交流活動の実際

(1)　育てたい児童生徒像

講義のテーマは、「私の母国〇〇と、人々の暮らしと文化」を基本としている。講義を聞いて交流した日本の子どもたちが、「①異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる児童生徒」に育って欲しいと願っている。もとより、「②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立」及び、「③意見を自ら発信し、具体的に行動する」児童生徒が育って欲しいとの願いが背景に込められていることは言うまでもない。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

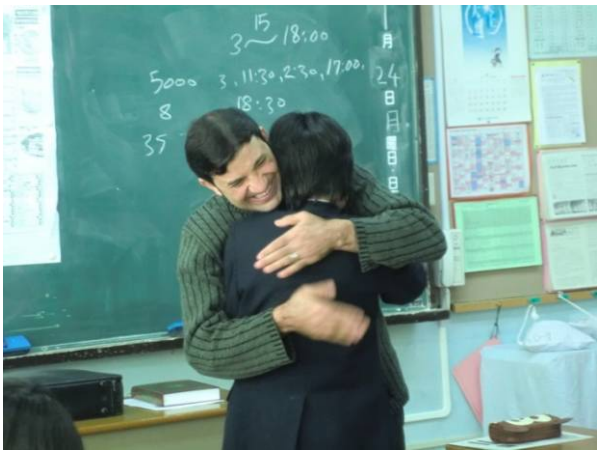
(2)　講義の内容・方法

基本の講義の内容は、「①自己紹介と母国の特色」、②「人々の暮らしと文化（衣食住中心に)」、③「留学生講師自身の生き方」についての３本柱で内容を構成している。

講義は学級単位とし、授業の単位時間を50分とり、流暢な日本語で話している。

① 「自己紹介と母国の特色」についての内容は、挨拶と自己紹介を母国語で行い、それを日本語で繰り返す。さらに、挨拶の言葉や仕方を児童生徒に教えて実際にやってみる。ここでは、国の言語の響きや文字の形や書き方、挨拶の仕方など多文化のもつ珍しさや不思議さを五感を通して児童生徒に感じてもらっている。

　続いて、母国の位置や気候、面積、人口、国旗のいわれなど人々の暮らしの舞台となっている基本的な事柄を紹介する。その際、写真や実物の提示、模型や小物などを使って、話の内容が児童生徒の目に見えるよう、また、直接触れることができるようよう説明の仕方を工夫している。



シリアでの挨拶の仕方を実演(生徒は文化の違いにびっくり！！)

日の丸の赤の意味は何ですか？　パラグアイの国旗の赤は、正義です。

② 「人々の暮らしと文化（衣食住を中心に)」についての内容は、主食や副食などの紹介、食事の仕方やマナー、民俗衣装の紹介・試着、住居の紹介、民俗芸能の紹介・実演、子どもに人気のスポーツや遊びの紹介・実演、代表的な年中行事の紹介など衣食住を中心とした人々の暮らしと文化を日本との同一点･相違点を示しながら紹介している。その際、写真や実物の提示、実演等、児童生徒を参加させながらも理解と交流が深まるよう、しかも児童生徒が五感を使って受け止め、理解することができるよう工夫している。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

セルビアでは誕生日のケーキは家で作ります。内戦の時でも、母はありあわせの材料で作ってくれました。

自然が遊び場。バングラデシュは貧しいから。でも、どの子もこんなに笑顔一杯。何故、笑顔なのでしょうか？

③ 「留学生講師自身の生き方」についての内容は、母国での自分の学校生活の様子、留学の動機、なぜ日本を留学先に選んだのか、留学のためにどんな努力をしたのか、現在の大学・大学院で何を学んでいるのか、学んだことを生かして将来何をしたいのか、など外国人留学生自身の過去・現在・将来を語ってもらっている。その際、夢をもつこと、あきらめないこと、チャレンジすることの大切さなど、自らのキャリア（わだち＝轍）を具体的に話すこと、但し、自分の話がサクセス・ストーリーだけに終わらないようにするなど、いくつかの配慮をしている。

キルギスから夢の日本へ留学。でも、４年目４回目の試験でやっと合格！！あきらめたらダメですね！！

④ 質疑応答

講義の中で、質疑応答の時間を設けることもある。児童生徒からは様々な質問が出る。多文化交流の具体的な学びの場になっている。以下、例を示す。

例１　質問：「日本に来て一番びっくりしたことは何ですか。」

回答：（電車が時刻通りに来たことです。また、ある時、電車が２分遅れたのに放送で謝っている、本当にびっくりです。私の国では、電車が時刻通りには来ません。遅れても謝りません。遅れたら、「電車に聞いてくれ！」です。「日本は実に素

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

晴らしい文化の国です。）

例２　質問：「日本食で一番おいしいものは何ですか。」

回答：（今は、納豆です。美味しくて安くて栄養価が高いからです。でも最初は、大学の食堂で「これ腐っています。」とおばさんに訴えたほどです。それからは、マヨネーズを入れたり、ケチャップを入れたり、ソースを入れたりと（笑）、食べ方をいろいろ工夫しました。今は、ネギと醤油が一番です。朝食に３パックも食べる時がありますよ。）

例３　質問：「日本はいいなあー、と思ったことはありますか。」

回答：（3.11 の時には、日本はすごくいいなあと思いました。私は、意を決して吉祥寺から落合南長崎まで歩くことにしました。暗い夜道を女一人で、最初はとても心細かったです。でも、コンビニや自動販売機が荒らされる訳ではないし、人々は黙々とまっすぐ前を向いて歩いているし、すぐに心細さは消えてゆきました。およそ４時間、むしろ安心して安全に家に帰ることができました。日本は世界中で一番、安心・安全な国です。）

例４　質問：「日本に来て、変だなー、と感じたことはないですか。」

回答：（相手にきちんと言わないことです。確かに、相手をおもんばかる日本の文化は素晴らしいです。しかし、私の国では、きちんと相手に言います。しつこいほどきちんと言います。日本でもあいまいにしておくより、きちんと言った方がよい人間関係を築くことになる場合も、時にはあるのではないでしょうか。）

(3)　各学校における講義の多様な展開

これらの３本柱で構成された基本の講義内容を基にして、講義を展開しているが、各学校ではその他に多様な指導計画を展開している。例えば、２限分を用意し、児童生徒が２か国の国の話を聞く方法、また、同じく２限分を用意し、１限目には外国人留学生講師の講義内容に相当する日本の伝統・文化を調べて外国人留学生に伝え、２限目で、外国人留学生の国の文化について講義を聞く方法、その逆もある。さらに、高等学校では、外国人留学生が講義の一部や全部を英語で行う方法もある。

また、３本柱の「③留学生講師自身の生き方」の内容について、講義時間 50 分の半分あるいはそれ以上を使って話す方法もある。これは、キャリア教育の視点に立った進路指導という点での当教育プログラムの発展的な活用である。

他方、外国人留学生講師を迎える教室を千代紙で作った「わっか飾り」やお花紙で作った「お花」できれいに飾ったりする学校もある。さらに、司会、最初の挨拶、お礼の言葉を児童生徒自身で運営したり話したりし、交流会の雰囲気づくりや児童生徒の主体的な活動を促したり、などの工夫をしている学校も多い。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

(4)児童生徒からの反応

講義を受けた児童生徒は、外国人留学生へ感想文やお手紙を書いている。後日、それは協会を経由して外国人留学生講師へと渡している。その一部を次に紹介する。もとより、外国人留学生講師は児童生徒から極めて高い評価を得ている。

ア　(前略)先生の話で一番びっくりしたのは給食が出ないことと、朝７時から授業を始めることです。給食が出ないと、食いしん坊の私はとても耐えられません。また、朝７時から授業が始まると、私は毎日遅刻をしてしまいます。(後略)(小５)

ルーマニアはこんなに楽しい国です！！

(ペルーでは医者)医学の夢をもって日本へ留学した胸の内を吐露しました。

イ　(前略)先生の話を聞いてペルー独自の文化を知り、とても楽しかったです。そして、ペルーが好きになり、行きたくなりました。(中略)地震があったときでも先生は日本に残って勉強をしてくださっていて、とてもうれしかったです。医学の勉強はとても難しいと思いますが、これからも頑張ってください。(後略)(中２)

民族衣装を試着、ミャンマーの学校の児童になってみました。

お礼の言葉を述べると、中国の留学生がほんのりと涙を浮かべました。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

ウ　ミャンマーの風景がとてもきれいでした。（Ａ）／ミャンマーの伝統衣装を見せていただいてとても楽しかったです．（Ｂ）／拍手をたくさんしたけれど、改めて学ぶってことは素晴らしいと思いました。ミャンマーに行ってみたくなりました。（Ｃ）／ミャンマーから来て３年しかたっていないのに、日本のことをよく知っていてくれるんだなと思いました。（Ｄ）／先生はとてもポジティブで素敵な考え方がすごいなと思いました。私もこれから目標を立てていきたいです。（Ｅ）（中２）

エ　夢をもっていて、それに向かって勉強・留学しているという姿勢があって、漠然と適当にやっている自分とは違うなと思った。（Ａ）／私も先生のように少しでも世界に目を向けるようにして自分の本当にやりたいことを見つけたいと思った。（Ｂ）／本当にしっかりしていて、自分をもっていて、輝いていて憧れた。でも憧れだけではだめだから、自分もそんな人になれるよう勉強に頑張りたい。（Ｃ）
（高１）

オ　先生のお蔭で現在の韓国の状況や問題を正確に理解することができました。テレビとは違って、実際のお話を聞くことができて、諸国の抱える問題を論理的に、そして、深く考える力を付けられたと思います。韓国の抱える問題と、日本が抱える問題の幾つかはとても似ていたのがあって、とても興味深かったです。韓国の学生の勉強時間にはとても驚きました。私も韓国の学生に負けないよう勉強を頑張って目標に近付けるよう努力したいと思いました。（高２）

ブラジルから日本へ留学。免疫学の研究をしています。留学してみたい人！！「はあい！！」

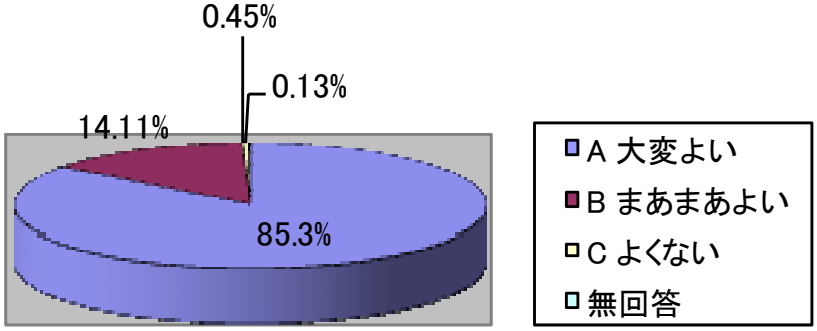
韓国の高校生は朝７時から夜中まで勉強するんです。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

(5)講義を聞いた担当の先生からの評価

外国人留学生の講義を聞いた全ての学校を対象にして、講義を聞いた担当の先生から５項目・３段階評価のアンケート評価をもらっている。５項目の内容は、①興味のもてる内容か、②児童生徒へ問いかけや参加を促すようにしたか、③児童生徒たちをひきつけていたか、④小道具・資料などを準備し活用していたか、⑤児童生徒の視野を広げる効果があったか、である。３段階評価の評価基準は、Ａ＝大変よい、Ｂ＝まあまあよい、Ｃ＝よくない、である。

アンケートの結果は、Ａ＝85.3%、Ｂ＝14.11%、Ｃ＝0.45%である。なお、「Ｃ＝0.45%」の意味は、0.45%の外国人留学生がいたという意味ではない。外国人留学生一人当たり、合計15段階評価（5項目×3段階）の評価を受け、その中に、「Ｃ」評価が0.45%含まれていたという意味である。その意味では、外国人留学生講師は学校（先生）から極めて高い評価を得ていると言える。



図表２：学校からの講義（授業）の評価（平成24年度）

４　おわりに（成果と今後の課題）

当教育プログラムの成果と課題は次の通りである。

(1)成果として

①異文化や異なる文化をもつ人々を受け止め、共生することのできる児童生徒を育てる意味において、学校支援に効果を上げている。

② 自国の伝統・文化を大切にし、主体性をもって自らの考えを発信し、具体的に行動することのできる児童生徒を育てる意味において、学校支援に効果を上げている。

③ 外国人留学生の学ぶ姿から、児童生徒が夢をもって学ぶことの大切さやチャレンジすることの意義に感化を受けているなど、キャリア教育の意味において、学校支援に効果を上げている。

④ 外国人留学生自身も日本の学校の教壇に立つことで、国の代表者としての意識が芽生え、日本との懸け橋になりたい、と話す外国人留学生講師が多くいる。また、日本の子どもたちを通して日本を深く知るよい機会になり、日本留学の貴重な思い出にしている。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

(2)今後の課題として

① 平成25年度も学校からの講義の申し込み数が多く、11月段階で翌年３月まで満杯になり、11月以降の申し込みはお断りしてきた（約70校強）。現体制、現資金ではお断りをせざるを得ないのが現状であり、課題となっている。

② 現体制を増強し、広く各学校からの求めに応じてゆくことが喫緊の課題となっている。しかし、現在、協会の経費は、一人の篤志家からの寄付で賄っている。今後は、公的な補助金などを始め体制を増強するために必要な資金援助を受けることが強く望まれるところである。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.